

## 時代と走り続けてきた、ACCORD 40年の進化の軌跡。

エネルギー危機や排出ガス規制など、クルマを取り巻く環境が大きく変化した1970年代中期、コードネーム“671”を与えられた名もない新型車の開発がスタートしました。目標は「130km/hでの快適クルーズ」。はじめから米国や欧州での高速走行を想定していたのです。まだ、シビックと軽自動車など数機種を生産するに過ぎなかったHondaは、持てる技術のすべてを集結させ、「広さ、走り、スタイル」

そして、優れた環境性能をも兼ね備えた理想の世界車を完成。人と社会とクルマの調和をめざし誕生させたことから、英語で“調和”や“一致”を意味する「アコード」と命名しました。以来、時代とともに走りながら進化を続けるACCORD。40年以上にわたり世界中から高い評価を獲得し続ける理由は、その性能やクオリティーの高さはもとより、“調和”の名に込めたHondaの思想への共感なのかもしれません。

1st.  
1976



“Hondaは、つねに「クルマの在るべき姿」を追求しています”

当時の米国の厳しい排出ガス規制「マスキー法」をクリアするCVCCエンジンを搭載し、優れた環境性能を実現。まさに「クルマの在るべき姿」に挑んだ意欲的な一台でした。

2nd.  
1981



FF新時代の「ワールド・クオリティー・カー」として

世界の高級車の概念をくつがえすハイオーナーカーをめざし、世界初(当時)となる三次元リアダンパーやマイルドフローベンチレーションなどを装備。FF新時代の「ワールド・クオリティー・カー」を名乗るにふさわしい存在をめざしました。

3rd.  
1985



“時代を抜きさるもの。”

「Hondaを代表するこのクルマには、持てるすべてを注入し尽くさねばならない」という強い思いで誕生。地を這うようなロー&ワイドフォルムで、時代の先端を走ろうとするものが持つ真摯な姿勢を示しました。

4th.  
1989



知的洗練を求める都会派のための、90年代ワールド・クオリティー・セダン

次代へ向け新たな洗練と先進性を込めて誕生。複層新体系から生まれたACCORD INSPIREは、力強い八等身フォルムに極限まで鍛え上げた性能と機能を融合し、知的洗練を求める都会派のための、セダンの進化形を示しました。

5th.  
1993



走りでセダンを超える。世界の愛車の新しい挑戦

トップレベルの社会性能(安全・環境)をめざすと同時に、クルマが本来持つ走る性能と、それによって得られる爽快な喜びにおいても「セダンを超える」性能をめざし大きく進化しました。

6th.  
1997



Honda DNA 走りの遺伝子が目を覚ます。

徹底的に磨き上げた基本性能で走りのポテンシャルを高め、力まかせのスポーツとも、クルマまかせのコンフォートとも異なる新しい走行性能を示した6代目。Hondaの遺伝子をまさに凝縮した一台でした。

7th.  
2002



全身、全域、Hondaイズム。

高速走行やワインディング走行で、よりいっそう「深み」が感じられる走りを追求。世界トップレベルの空力性能を達成したほか、Honda SENSINGにつながる高速道路運転支援システム「HiDS」を世界に先駆けて実用化。

8th.  
2008



人生に、ロングツーリングの喜びを。

高速走行やワインディング走行が長時間続くロングツーリングなどで、クルマの真価が問われる欧州においても、こころ揺さぶるパフォーマンスを発揮する一台をめざしました。高速クルージングにゆとりを与える先進機能も多彩に装備。

9th.  
2013



セダン愛。超アコード。

革新的な2モーターハイブリッドシステムを手に入れ、すべてが生まれ変わった9代目。力強くなめらかな加速特性や優れた静粛性、圧倒的低燃費を実現するこのシステムは、Hondaの次世代コアテクノロジーとして10代目に受け継がれます。